

2019年11月号

11月15日(金)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 278



クマゲラ 見つけた！…

秋の雲が形を変え、見ていて飽きません。時には鳥の羽ばたく姿に見える時も。

そんな折、ハンノキ林で「ケ・キョーン！」と響き渡る鳴き声。普段は山奥にいるクマゲラが現れ、驚きました。意外な野鳥の動きにも、季節の移ろいを感じます。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【ツルウメモドキ】
ニシキギ科 蔓梅擬
仮種皮と呼ばれる赤い実が鮮やかで、華道やフラワーアレンジメントなどにも用いられます。野鳥たちの食糧にもなっています。



【フキノトウ(アキタブキ)】
キク科 秋田蓴
春に真っ先に花を咲かせますが、毎年この時期にフキノトウが所々で顔を出します。偶然なのか、本種の戦略なのかは不明です。



【サワシバ】
カバノキ科 沢柴
房状の果穂が枝から垂れ下がっています。一枚一枚がプロペラ状になっており、滞空時間を延ばして遠くへ種子を飛ばす戦略です。



【カラフトイソツツジ】
ツツジ科 樺太磯躑躅
ミズゴケ湿原では低木の植物がじっと次の春を待つように花芽をつけています。本種は小さな群落を作るので、花芽が特に目立ちます。



【エゾシカの食痕】
シカ科 蝦夷鹿
ケヤマハンノキの樹皮が妙な剥がれ方をしました。これはエゾシカの食痕で、下の歯でこそげ取るようにして樹皮を食べます。



【ガマ】
ガマ科 蒲
湿原内でひときわ存在感を放っています。フランクフルトのようだった果穂から綿状の種子が出始め、風に乗って飛んでいきます。

〇表紙の写真 上：湿原に浮かぶ秋の雲 中右：ハンノキの花芽 中左：クマゲラ

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

冬も近づき様子がすっかり変わった温根内周辺ですが、木の葉が枯れ落ちて見通しがよくなった分、バードウォッチングには向いています。これからはオオワシやオジロワシといった冬の訪れを告げる野鳥も見られるかもしれません。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸出しております。お気軽に職員までお申し付けください。



【クマゲラ】 留鳥
キツツキ科 熊啄木鳥
日本最大のキツツキ。湿原周辺で見かけることは滅多にありませんが数日間だけ姿を見せ、温根内では迷鳥と言えるかもしれません。



【ヒシクイ】 旅鳥
カモ科 菱喰
越冬地へ移動していく旅鳥で、上空を見事なV字の編隊を組んで飛んでいきます。こちらも絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



【クロジ】 夏鳥
ホオジロ科 黒鷗
北海道では夏鳥ですが、温根内では渡りの途中通過していく旅鳥。写真の個体は全体的に黒みが弱く、今年生れのオスと思われます。



【ツグミ】 冬鳥
ヒタキ科 鶺鴒
全国的に飛来する冬鳥で、温根内でも数羽の群れで飛び回っています。ツルウムモドキの実なども食べているようです。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（10月15日～11月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順

■ヒシクイ■オオハクチョウ■タンチョウ■トビ■ノスリ■フクロウ■コゲラ■コアカゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■クマゲラ■モズ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■コガラ■ヒガラ■シジュウカラ■ヒバリ■ヒヨドリ■ウグイス■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ミソサザイ■ツグミ■セグロセキレイ■タヒバリ■アトリ■カワラヒワ■マヒワ■ベニマシコ■シメ■アオジ■クロジ■オオジュリン

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆ トピック 自然の記録を可視化してみる① ～手探り編～ ☆☆☆

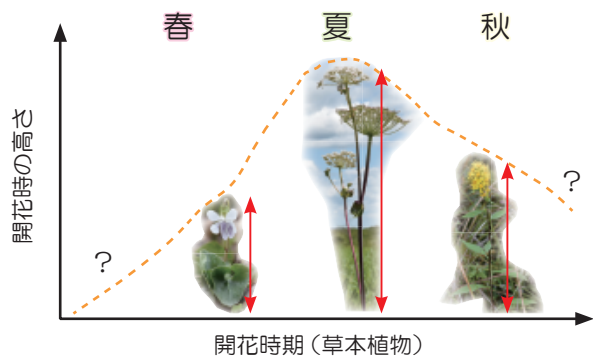
私たちビジターセンターの職員は日々、木道を巡回しながら自然情報を記録しています。記録しているのは、植物の開花情報や野鳥の確認記録などで、その都度フィールドノートに書き込んだり、場合によっては写真を撮ったりして記録をつけていきます。

さて、私たちが残してきた温根内周辺の自然の記録は、記録した本人が把握しきれないほど膨大になります。そこで、



これらのデータをうまく「可視化」できれば、何か面白いことがわかるのでは・・・？そう思い、蓄積データをこねくり回しています。

今回はその手始めに、温根内の1年を通して見た植物の「移り変わり」を図化できないものかと、グラフを描いてみようと思いました。過去の開花データを振り返れば、どの植物がどの時期に咲くのが大体わかってきます。そこで、例えば横軸に開花時期、縦軸に草本植物の開花時の高さをとって、植物1種に対し1点のプロットを落としていきます。すると、季節の移ろいとともにつける植物の高さがどう変化していくのかが、ざっくりとわかるかもしれません。予想としては、夏にピークを迎えることが想像できます。ただ、春の始まりや秋はどのように終息していくか？などは個人的に興味のあるとこ

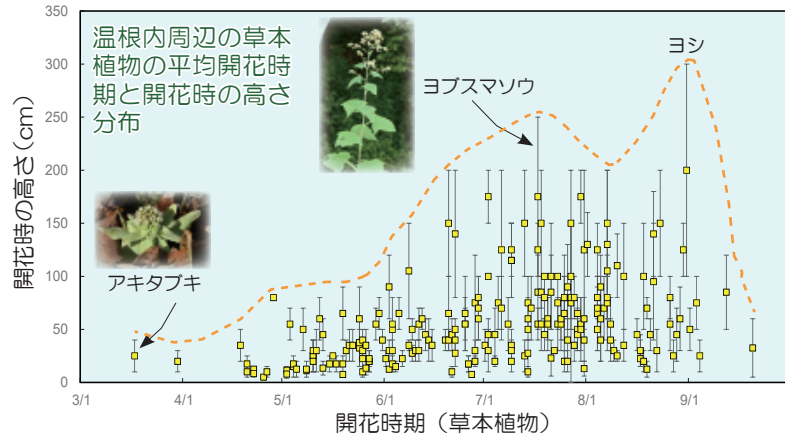


開花する植物は減ってシーズンの終わりを迎えます。今回は試行的に作ったので、学術的に意味があるかなどは考慮していませんが、読者の皆さんが実際に温根内を歩いている印象と比べてこの図はどう映りますでしょうか。ぜひ感想をお聞かせください。(藤原伸也)

※グラフの見方：開花時期は過去3年間の平均時期。エラーバーで各植物の高さの幅を示し、その中間点に黄色の点を落としている。高さの幅は「北海道の草花」(梅沢俊著)、「北海道植物図譜」(滝田謙讓著)から引用。つる性の植物は除外している。

ろでした。

さて、そこで作って見たのが右の図です。どうでしょうか。(植物の高さは個体差があるので厳密なことは言えませんが)春のアキタブキの開花から始まって緩やかに立ち上がり、夏のヨブスマソウで一度ピークを迎えます。しかし、盛夏の時期でも背の低い植物が相変わらず花をつけているのがわかりますね。そして秋にヨシの花が咲いてもう一度ピークがあり、その後は急速に



☆☆☆☆ 階段改修工事完了！そして木道の工事が始まります ☆☆☆☆

長らくご不便をおかけしておりましたが、このたび一般駐車場から当ビジターセンターへ至る階段の改修工事が完了し、通常通りご利用いただけるようになりました。

また、11月の下旬より、破損が目立つ木道を順次改修していく予定です。具体的な工事日程は未定ですが、決まり次第、当ビジターセンターのホームページやFacebookにてお知らせいたします。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



☆☆☆☆ イベントのご案内 (12月) 事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪地形を見て歩く！湿原探索

〔日時〕 12月1日(日) 10:00 ~ 12:00 〔定員〕 15名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕 無料

〔場所〕 温根内ビジターセンター

植物の花や葉が枯れ落ち、遠くまで見渡せるこの時期。普段は注目しない、湿原周辺の「地形」にスポットを当てて木道を歩きます。

～早い日の入りにご注意を～

道東地方は日没が想像以上に早いです。特に午後から訪れる方は、日の入り時間をチェックしてから歩かれることをお勧めします。防寒もお忘れなく。



月刊 温根内通信 No.278

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/>

Facebook: 温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間: 9:00 ~ 16:00 (4月~10月は17:00まで)

休館日: 毎週火曜日 (12/29 ~ 1/3 は休館) 入館無料